

# 聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール  
聖母の小さな学校  
2022年  
6月1日発行  
第245号

## 小さなワクワクを積み重ねよう！

木々の緑も色濃く夏草の茂る頃となりました。平素は聖母の小さな学校の教育に格別のご協力をいただき、深く感謝いたします。

新型コロナウイルス感染の完全収束は見えないものの、それに対応した方法で、できるだけ活発に教育活動をしていくことが求められています（「学校の新しい生活様式」（2022.4.8.文部科学省））。そしてまた本校のように、ひきこもり傾向にある不登校の子どもたちの教育には、体験的な活動が欠かせません。自身の現在の状況を認識したり、自分にとり、どうすることが良いと思え、気持ちが落ち着いたかを少し感じたりして、生活や行動を整えていく、この事は、ずっと続きますが、その中で、わら草履を作ったり、ポンペイ展の見学に行ったり、オムライスの調理実習をしたりなど、それらの体験活動の中で、一つでも、小さくても、「ちょっとワクワクした」…何か「心の中で自分がほほ笑んだ」（「内は生徒の言葉」）りしたら、新たな行動が自然に生まれ、生活も整っていきます。

ある生徒は、他の生徒が下校した後で出席することを目的に、10～15分登校します。家から出ること、だんだん緊張しなくなったと言っています。この1年で、100日の登校を目指しています。この目標が持てるまで、3年半かかっています。これも、保護者が、日々、我が子と共に生きてこられ、希望を作ってくられたからです。「大きな変化のない3年半、変わらない日々の3年半を、親として丁寧に子どもと共にある」…。これはとても大切な事です。

本校では、毎月保護者会を開いています。保護者は子どもの現在の状態を正しく捉えること、また自身の混乱した考えや思いを少し整理することや、互いに気持ちを共有することなどができているようです。一人ひとり違いますが、不登校を経験している者同士という安心感もあるようです。いずれにしても、保護者が力を得て、親子で成長することができれば良いのではないのでしょうか（市内のある中学校でも、「親子で成長」というスローガンを掲げています）。

5/17に京都市内のポンペイ展見学がありました。3名の生徒が参加し、紀元79年に火山噴火で埋没した都市の文化や生活に触れました。大勢の観客の中でずっと緊張していた、でもスターバックスのドリンクはおいしかった生徒、ポンペイ人の死生観にちょっと感動した生徒、それぞれ「小さなワクワク」を感じてくれたようです。



5/17 ポンペイ展見学

6月も、大江山への遠足、海釣りなど、多くの体験学習をしていきたいと思えます。ひきこもり傾向にある不登校の生徒への教育の基本をベースに、今月も教育活動をいたします。

どうぞよろしくお願い致します。



わら草履できました！

### <今月の主な行事>

6日（月）華道教室	10日（金）・17日（金）理科（中岡先生）	7日（火）遠足
14日（火）28日（火）ギター教室（北浦先生）	9日（木）・23日（木）ウズベキスタン学習	
15日（水）つり大会	18日（土）親子行事「草刈り」	22日（水）体育（渡邊先生）